

PSE の弓をご購入いただきありがとうございます！

PSE の弓は最高品質の素材から、アメリカの誇りを持って、一本一本丁寧に製造されています。正しい方法で使用すれば、何年もこの弓でアーチェリーを楽しむことができます。弓を使用したり、調整する前に、必ずこのマニュアルをすべて読んでください。コンパウンドを調整するためにはボウプレスが必要になります。

## 基本的な動作方法

シューティングを行う前に、毎回必ず弓が正しく動作するか、隅々まで確認してください。ブッシングやスペーサーなどが摩耗したり、緩んだ部品や足りない部品がないか確認し、もしある場合には、近くの PSE の代理店で交換してもらうようにしましょう。

矢がまっすぐで、傷ついていないこと、ノックがいつもの状態にあるかを確認してください。割れたノックは矢の発射時に壊れてしまい、弓の「空うち」を引き起こしてしまいます。その結果、選手が怪我をし、弓も傷んでしまいます。「空うち」とは、矢を弦に取り付けずにドローイングをし、リリースすることです。

あなたの弓に合わせた矢を購入するときは、矢のメーカーからアローチャートをもらい、自分に合った正しい矢を選ぶようにしましょう。**弓のピークポンド数を5倍にした数字以上のグレイン数の矢を使用して下さい。**グレイン秤が無い場合は PSE の正規販売店に相談して下さい。もちろん、ポンドを上げた場合には、1ポンドに対して、最低で5グレインずつ矢の重さを増やしましょう。そうしないと、高いポンドの弓で軽い矢を使用することは、怪我や弓の故障の原因になります。

## 弓のメンテナンス

あなたの PSE ボウは正しいメンテナンスを行えば、何年でも使えます。

**注意：あらゆる PSE ボウをボウプレスにかける前に、上下のリムボルトの位置を締めこんだ位置から4回転分緩めた位置に戻して下さい。**

毎回のシューティングセッションの前に、ケーブルと弦にワックスをつけるようにしてください。

弦とケーブルは定期的に交換する必要があります。傷んだ弦やケーブルは突然壊れ、それによりアーチャーに重度のけがを負わせたり、弓にひどいダメージを与えてしまいます。弦やケーブルは5,000射ごと、あるいは12か月ごとに交換することを推奨します。

弓は必ず涼しい、乾燥した場所に保管してください。車両の中など、高温になりやすい場所に置いておくと、弓がひどく傷んでしまいます。

湿度が高い状況下で使った後は、弓の金属部分をオイルなどを使って拭くようにしてください。

## 安全管理

他の多くの武器と同様に、PSEの弓を使用する際は十分な安全管理に留意することが非常に重要です。ボウプレスで弓を扱うときは、毎回必ず安全ゴーグルをつけるようにしてください。正規の方法以外で弓を使わないでください。重大なけがを負ってしまう可能性があります。

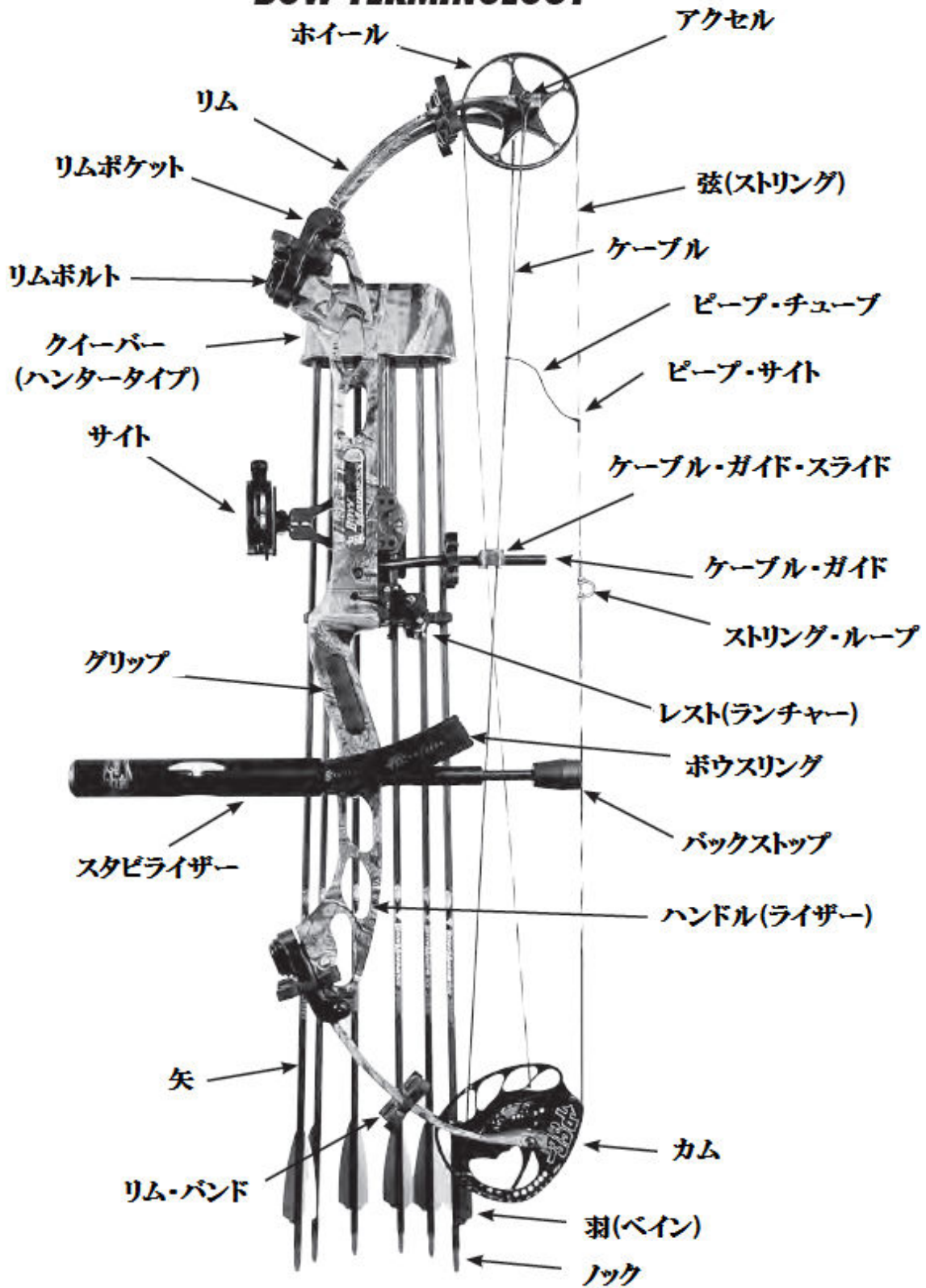
絶対に「空うち」しないでください。「空うち」とは、矢を弦に取り付けずにドローイングをし、リリースすることです。「空うち」によってアーチャーや弓に重大なダメージを与えてしまう可能性があります。「空うち」をしてしまった場合は、公認のPSE代理店で、弓にダメージがないか確認してもらってください。絶対に、弓を何度も「空うち」しないでください！

ターゲットが何処にあるかを必ず確認し、ターゲットエリアの後ろに何があるかを把握してください。矢はかなりの距離を飛んでいくので、安全でしっかりとしたバックストップ(防矢ネット)が必要になります。

弓を引き戻す必要がある時は、ゆっくりと慎重に行ってください。押し手をまっすぐ伸ばしておき、急速な引き戻りに備えてください。手がケーブルガードなどのアクセサリに当たらないように注意してください。引き戻しの最中は、顔や頭を危険な位置に置かないでください。自分が自信を持って引けるピークウェイト以上の弓は、絶対に使わないでください。弓を引くときはボウスリングを使いましょう。

弓にドリルで穴をあけたり、部品を取り除くなど、弓のパーツを改造しないでください。保証が効かなくなり、安全な使用ができなくなります。ドローイングマシンは必ずウィンチ付きの金属製で機械式のものを使用して下さい。

**BOW TERMINOLOGY**



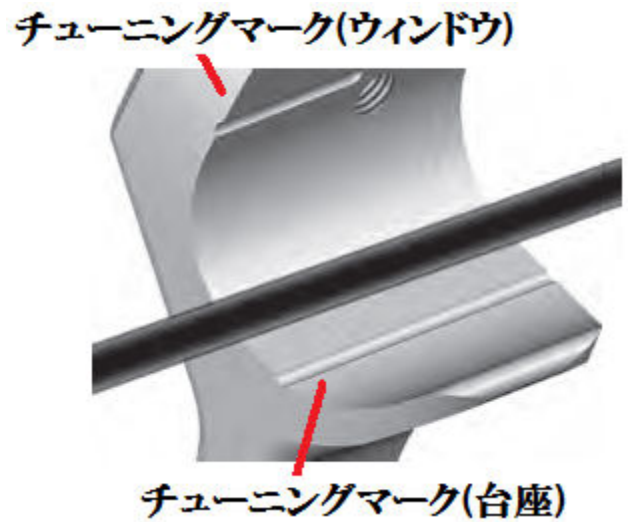
弓を準備する

① ノッキングポイントの設置

フィンガーシューターの場合：矢がレスト取り付け用ホールの中心を通り、弓のウィンドウ側のチューニングマーク（ウィンドウ）に対して、ポイントが少し下を向くようにノッキングポイントをつける。



リリーサーを使う場合：矢がレスト取り付け用ホールの中心を通り、弓のウィンドウ側のチューニングマーク（ウィンドウ）に対して平行になるようにノッキングポイントをつける。



② アローレストの調整

リリーサーを使う場合、アローレストの in/out ポジションは、矢を上から見たときにチューニングマーク（台座）と平行になるように調節しなければなりません。指を使ってシューティングする場合は、ポイントはマークから少しだけ外側を向くようにします。

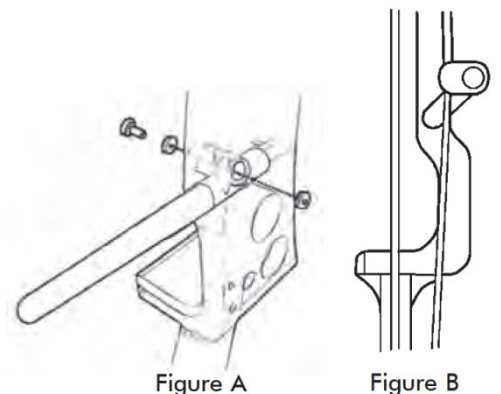
③ サイトの調整

サイトピンの位置を調節するときは、必ず「グルーピング」をするようにチューニングを行ってください。というのは、もし、矢が的の左側にグルーピングした時は、サイトも左に動かせばいいのです。矢が下に行った場合は、サイトピンも下に動かせばいいのです。

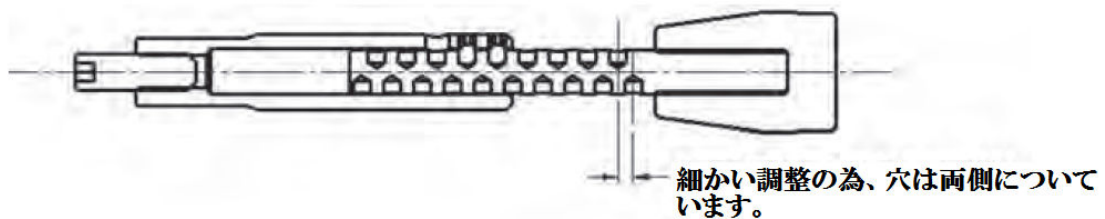
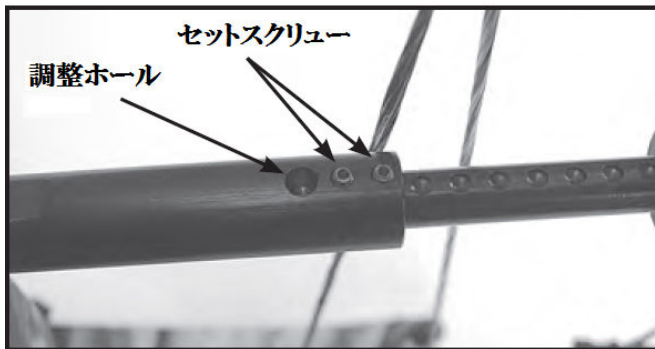
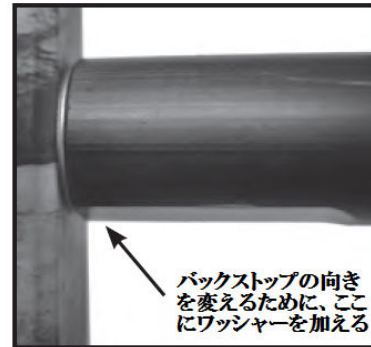
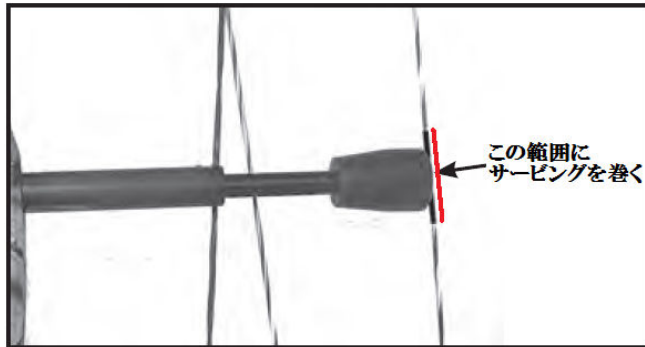


④ ケーブルガードの調節と設置

図 A のようにケーブルガードを取り付けます。ケーブルがヴェインに当たらないようにケーブルガードを調節します。オフセットケーブルガードロッドを



弓に使う場合は、図 B のようにロッドを上にした状態で調節しなければなりません（およそ 1 時の方向、左利きの場合は 11 時の方向）。アジャスタブルケーブルガードを回しすぎてしまうと、過剰に矢のクリアランスが広くなり、ケーブルが正しくホイールに沿わなくなるので、シューターや弓にダメージを与えてしまう可能性があります。



## 【バックストップについて】

**注意：多くの PSE のモデルはバックストップがついた状態で出荷されます。**

以下の説明は弓の調整をした後に、その再調整が必要な場合の手順の説明になります。

1. 1/16 インチレンチを使ってセットスクリューを外します。

2. バックストップを、グリップの下の弦側のねじ穴に取り付けます。
3. 弦と接触するまでバックストップを伸ばします。弦とバックストップとの上下の接点から上下にそれぞれ1/4インチの位置にマーキングをします。バックストップを取り外し、マーキングしたエリアにサービングをします。このあと、再びバックストップを取り付けます。
4. セットスクリューがケーブルの方を向かないように、セットスクリューはケーブルから離して取り付けます。もし、そうならない場合にバックストップのベースを外し、ワッシャーを入れてから再びバックストップを取り付けます。
5. ベースをハンドルにしっかりと固定します。
6. ラバーストッパーが弦に接するまでロッドを伸ばします。調整ホールに一番近い突起が確認できるまでロッドを回します(図を参照)。ロッドを180°回し、次の突起が見えるようになるまで、ロッド/ストッパーが弦に軽く押しつけられるよう調節します(穴は両側にあります)。この位置でロッドを固定するためにセットスクリューをつけてください。最後に、セットスクリューを固く締めてください。

### アクセサリーの設置

#### ① アローレスト/オーバードロー

アローレストやオーバードローは製品についている説明に準じて取り付けるようにしてください。通常はハンドルのウィンドウの反対側（穴 A）に、アローレストやオーバードローに付属してくるネジを使って取り付けます。

#### ② サイト

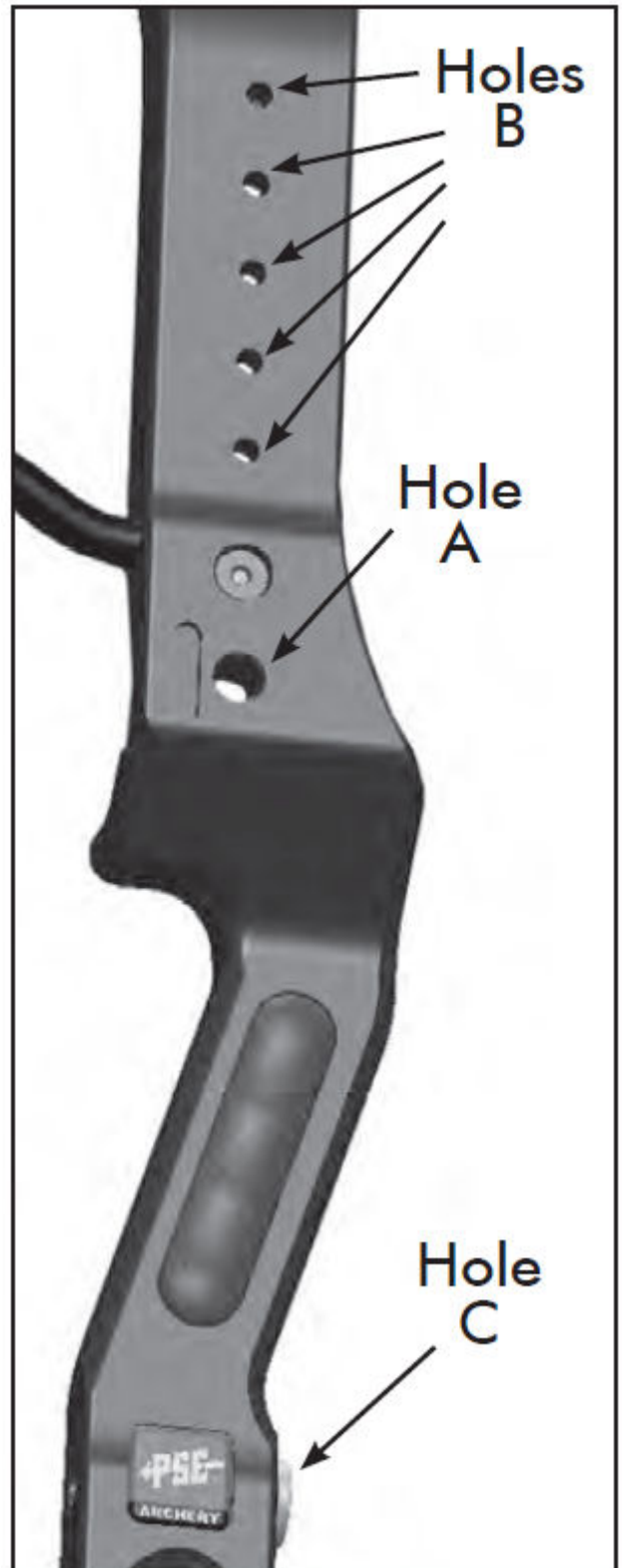
サイトは製品についている説明に準じて取り付けるようにしてください。通常はハンドルのウィンドウの反対側（穴 B）に、サイトに付属してくるネジを使って取り付けます。いくつかのモデルはサイト用のねじ穴がたくさんあり、状況に合わせて好みの位置に取り付けてください。

#### ③ スタビライザー

スタビライザーは製造者の推奨に合わせて取り付ける必要があります。通常はハンドルの前にあるねじ穴に取り付けます（穴 C）。

#### ④ ボウスリング（ボウスリングを装着する場合）

ボウスリングはスタビライザーと合わせてハンドルに取り付けられます。スタビライザーを使わないでシューティングする場合、スリングを正しいサイズのボルトで、スタビライザーを取り付ける穴に固定しなければなりません（穴 C）。



## 他の調整

### ① ドローウェイト

あなたの弓のピークドローウェイトは、下リムに表記されている表示ポンドの上下2ポンド以内に、工場でセットされています。ポンド数を変える場合はリムボルトを締めたり、緩めたりすることによって調節できます。変更を行う前に、リムボルトを時計回りに締めこみます。その際は、ボルトを回す時に過剰な力をかけないでください。リムにダメージを与えてしまう可能性があります。そこからリムボルトは反時計回りに動かし（緩め）、ポンドを調節することができますが、絶対に4回転以上緩めないでください。例外はMini Burner, Discovery 2, Barracuda と、6回転以上緩められるセンターロックポケットがついている弓だけです。上下のリムを同じように調節してください。

注意：弓のモデルの中には、調節の前にリムボルトロックングスクリューやポケットロックングスクリューを緩める必要があるものがあります。

### ② ホイール/カム

多くのPSEモデルのホイールやカムは調節可能です。それぞれが工場で調整され、すぐに使える状態ですが、弓の状態によっては、のちのち調整する必要がある場合があります。何を調整するか判断するためにPSE チューンチャートを使う必要もあるので、プロショップに相談してください。また自分の調節に納得できない場合は、お気軽にPSEの代理店にお問い合わせください。ホイールやカムを調整する多くの場合、弓の形状にあった正しいボウプレスが必要になります。もし、ボウプレスを持っていない場合は、PSEの代理店にあります。

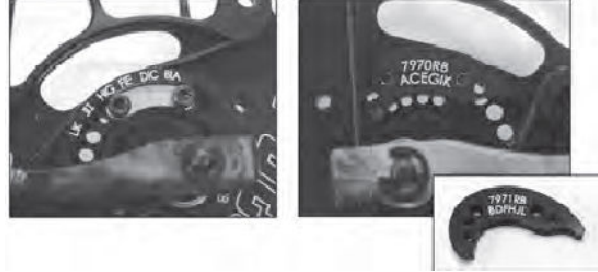
ライセンスを公表しているPSE代理店は責任を持って対応します。



下記のチューニングは一般的にはプロショップで行うものです。自分で行う場合には、まず、この取扱説明書を熟読し、プロショップの説明を聞いてから行って下さい。

## カムの調整

### カムの向き



オリエンテーションマークのついているカムには、大体のカムの向きを決めるための目印がついています。このラインは参考までのものであり、弓によっては異なる場合もあります。カムの方向は、弦やケーブルをねじることにより変えることができます。弦を「+」か「-」に合わせる時、オリエンテーションマークはケーブルとは合いません。

## ドローレングス

### ① スtringポストアジャストメントシステム

いくつかのPSEのカムはドローレングス調整のためのStringポストアジャストメントがついていることがあります。ドローレングスに微調整が必要な場合、一度、弓をボウプレスにかけて、弦やケーブルのテンションから解放する必要があります。カムの弦側には付加的なポストがある場合があります。弦を点のあるポストから「+」のあるポストに動かすと引き尺を約1/4インチ伸ばすこととなります。弦を点のあるポストから「-」のあるポストに動かすと引き尺が約1/4インチ縮むこととなります。

### ② インナーカムシステム

すべてのインナーカムは弓をボウプレスのかけずに一定のドローレングスを調整することができます。インナーカムには2種類あります。一つは「discrete setting inner cams」、もう一つは「Posi-Lock inner cams」です。

「Discrete setting inner cams」はインナーカムを通してカムへとつながる穴に調節ねじが入っています。調節を行うためには、ねじを取り外す必要があります。「A」のセッティングはその弓の最も長いドロールングスであり、アルファベットが進むごとにドロールングスは短くなっていきます（AからB、BからC...）

「Posi-Lock adjustable inner cams」は1/2インチごとにドロールングスを調節できます。「A」が最も長いセッティングになり、アルファベットが進むごとにドロールングスはおおよそ1/2インチずつ短くなっていきます（AからB、BからC...）

場合によっては、求めているドロールングスを得るために ACEGIK と表記されたインナーカムから、BDFHJL と表記されたものに変える必要がある場合もあります。調節をするためには、まず両方のねじを外します。求めている長さが ACEGIK の方にあるか、BDFHJL の方にあるか確認します。コンプレッションプレートのマークを、インナーカムの適切なマークにそのラインを合わせます（“A/B,” “C/D,” “E/F” ...）。選択したインナーカムを、アラインメントピンと両方のねじが整合する穴に合っているか確認しながら、カムに取り付けます。ねじを締め、ドローストップをセッティングに合う位置まで持っていきます（「A」なら「A」へ、「B」なら「B」へ）。

**インナーカムが上下両方のカムにある場合は、どちらのカムも同じアルファベットの位置に調整されていなければなりません。** 別々のドローストップがある場合は、ドローストップはインナーカムに適応するアルファベットのある穴の位置まで動かす必要があります。

## ストップの調整

### ① ドローストップ

ドローストップの位置はモジュールの大きさに合っていなければなりません。たとえば、7番のモジュールを使っている場合は、ドローストップは「7」と書かれた穴に取り付けなければなりません。もし、インナーカムが「B」に設定されている場合は、ストップは「B」の位置になければなりません。特定のハイブリッドカムには、上下にストップがついています。両方のストップを使って「硬い」ウォールでうったり、ストップを一つにして「柔らかい」ウォールでうつ

ことができます。ハイブリッドカムを二つのストップのうちの下ストップだけで使わないようにしてください。どちらの場合でも、ストップはインナーカムのセッティングと同じ文字のところに取り付けなければなりません。ウルトラファスト (UF) ハイブリッドカムシステムは、バレーが長いものと短いものの二つがあります。上下の両方のストップを使い、「硬い」ウォールでシューティングする場合は、両方のストップが対応する長さの穴に合わせて取り付けられなければならない。

## ②レットオフ

レットオフアジャストメントはドローストップの一部です。高いものから低いものに合わせる場合、ドローストップを高いレットオフの穴から取り外し、モジュール番号に適應した、より低いレットオフの穴に変えます。たとえば、カムが7番のモジュールをつけていた場合、ストップはより低いレットオフセッティングで、「7」と書かれた穴に取り付ける必要があります。低いレットオフのセッティングにすると、ドロールンスが少し短くなります。

## ステージ3システム

### ① ドローレングス

ドローレングスの調整は、弓をボウプレスにかけ、弦やケーブルのテンションから解放する必要があります。弦の長さを短くするスロットに弦を動かすことによって、ドローレングスをホイールごとに1/2インチずつ短くすることができます。弦の長さを長くするスロットに弦を動かすことによって、ドローレングスをホイールごとに1/2インチずつ長くすることができます。

## FCフレキシブルカム

FCカムシステムは、二つのカムと、その中で回転する、ドローレングスを調節するためのインナーカムによって構成されています。また、カムデザインには二つのドローウェイトセッティングがあります。「Fixed Peak Weight」セッ

ティングでは、ドローレングスに関係なく、ピークウェイトが同じになります。  
「Grow With You」セッティングでは、ドローレングスが短くなるごとに、ピークウェイトが軽くなります。

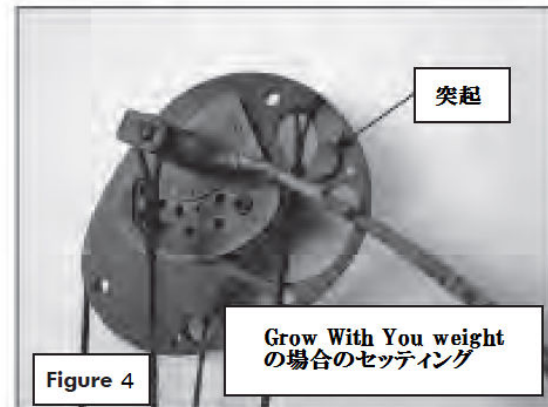
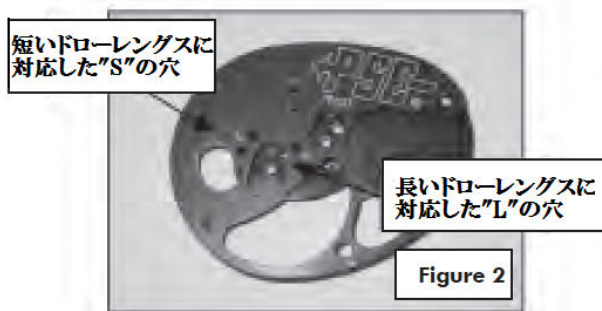
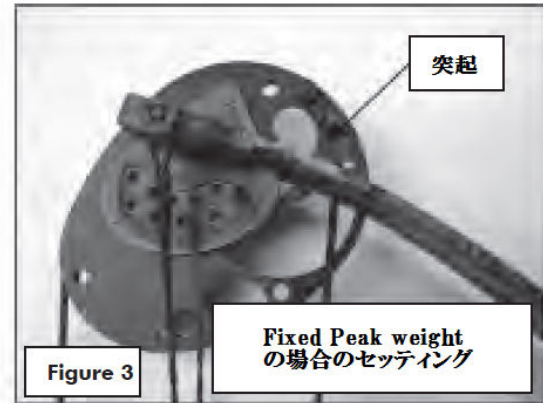
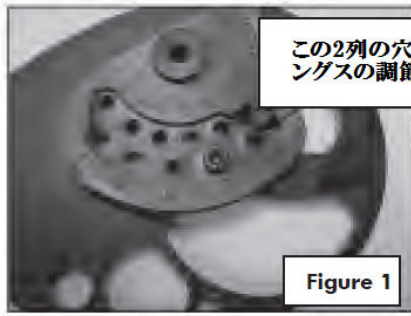
## ドローレングス調整

インナーカムには、ドローレングスを調整するための「A」から「J」の穴（図1）と、それに対応した「S」から「L」までのねじ穴があります。「L」の穴は引き尺が長い場合に、「S」の穴は短い場合に使います（図2）。さまざまなドローレングスと重さを得るために、下の表を見てどのようなセッティングをすればいいか見てください。

### Chaos FC

Fixed Peak Weight Cable Setting		Grow With You Cable Setting				
All Bows		Draw Length	29# bow	40# bow	50# bow	60# bow
Setting	Draw Length		Peak Weight	Peak Weight	Peak Weight	Peak Weight
A-L	27	27	21 3/4	36	45	54
B-L	26 1/4	26 1/8	21 3/4	36	45	54
C-L	25 1/2	25 3/8	21 3/4	36	45	54
D-L	24 3/4	24 1/2	21 3/4	36	45	54
E-L	24	23 3/4	21 3/4	36	45	54
F-L	23 1/4	22 7/8	21 3/4	36	45	54
G-L	22 1/2	22 1/8	21 1/2	35 3/4	44 1/2	53 1/2
H-L	21 3/4	21 1/4	21 1/4	35 1/4	44	53
I-L	21	20 1/2	20 1/2	34	42 1/4	50 3/4
J-L	20 1/4	19 3/4	20	32 1/2	41	49
G-S	19 1/2	19	19	31 1/4	39	47
H-S	18 3/4	18 1/4	18	39 1/2	37	44 1/4
I-S	18	17 1/4	16 1/2	27 1/2	34 1/4	41 1/4
J-S	17	16	14 3/4	24 1/2	30 1/2	36 3/4

必要なセッティングをするときは、インナーカムのねじを外し、インナーカムのアルファベットがカムの「L」か「S」の穴の位置にくるように回転させます。そして、再びねじを締めます。上下のカムが同じようになるように調整することが大切です。これらの調節はボウプレスがなくてもできます。



## ウェイト調整

「Fixed Peak weight」セッティングの場合、それぞれのケーブルがカムの突起の部分にひっかけられ、その溝にくるようにしなければなりません(図3)。「Grow With You weight」セッティングの場合は、図4のように、ケーブルがそれぞれのカムの突起の部分にかけられ、そのうしろにくるように取り付けます。詳細な調節のための情報は表を見てください。これらの調節にボウプレスは必要ありません。

### UF カムに関する注意

OMEN PRO などの PSE UF カムを使う場合は、カムに十分なクリアランスがあるボウプレスを使うことが重要です。

いくつかのボウプレスでは、リムに圧力かける時に、**図 1** のようにカムがボウプレスに接触する場合があります。弓をプレスするとき、この部分をよく見ておいてください。もしカムがボウプレスに接触した場合は、**すぐにボウプレスを止めてください**。止めないと、弓に深刻なダメージを与えてしまいます。



詳細は代理店・ボウプレスの製造元に問い合わせ下さい。

### ドロウウェイト調節

PSE には二つのポケットタイプがあります；一つはハードストップポケット、もう一つはバイブレーションダンパーポケットです。

ハードストップリムポケットはピークウェイトを決めるために「底」の部分があります。この部分でリムとポケット、ハンドルがそれぞれに接触し、それ以上動かないようになります。

バイブレーションダンパーポケットは、リムとポケットとハンドルの間にゴムが入っています。「底」の位置はリムがハンドルに接触する位置ではありません。バイブレーションダンパーポケットの「底」は、リムの下の表面でハンドルから 0.20 インチ (3/16 インチか 5mm) 離れた位置にあります。ドロウウェイトを増やすためにリムボルトを調整する必要がありますが、リムとハンドルの間の隙間は 0.15 インチ (4mm) 以下になってはいけません。

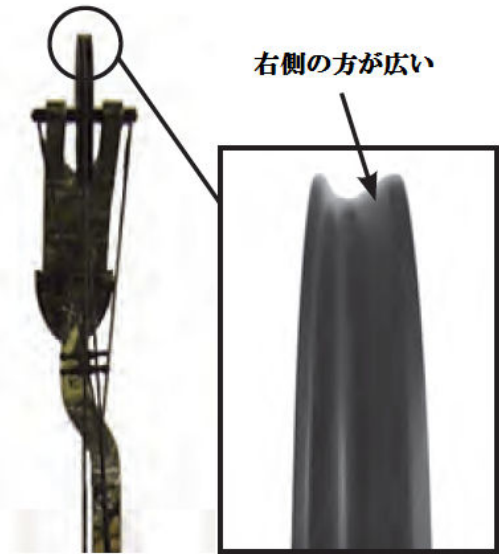


バイブレーションダンパーポケット

**重要：バイブレーションダンパーポケットのある弓では、リムがハンドルに直接接触しないようにしてください。必ず、4mm の隙間を確保すること**

### 非対称ホイール

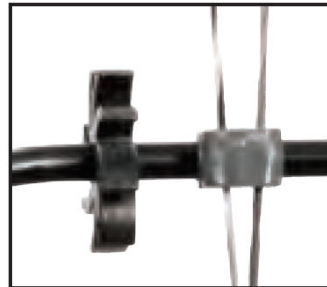
いくつかの PSE の弓には、トップリムに特殊な非対称ホイールが装備されています。ホイールは向きを正しく設定しなければなりません。ホイールの広い方の端は、弓のケーブルガード側になければなりません。図は右利きの選手が弓をホールディングしている状態を後ろから見た状態で、アイドラーが正しい方向を向いていることを示しています。



### VIBRACHECK ハッシュキットアクセサリ

もし、ケーブルガードダンパーがあなたの弓についていたら、弓を使用しない時もケーブルスライドをつけるべきです。ケーブルガードダンパーは一つ以上使うことができます。

もし、あなたのソリッドリムボウにリムバンドがついていたら、バンドの正しい取り付け位置はリムフォークから約 1/8 インチ手前 (リムポケット側) の位置です。



ケーブル・ガード・ダンパー



リムバンド(ソリッドリム)

もし、あなたのスプリットリムボウにリムバンドがついていたら、バンドの正しい取り付け位置はカムから少なくとも 1/4 インチ離れた場所です。



リムバンド(スプリットリム)

## X テクノロジー

Xテクノロジーボウは、あなたのアーチェリー経験を高める、特殊な機能を備えています。

### INDEPENDENT SPLIT LIMB POCKET SYSTEM

いくつかの X テクノロジーボウは independent split limb (ISL) ポケットを装備しています。ISL ポケットのついた弓を使う場合は、必ず下記の説明を呼んで下さい。説明書を読まずに、この弓を調節しようとしな  
いでください。



## メンテナンス

弓は摩耗します。定期的に検査し、適切な調節とメンテナンスを行う必要があります。このメンテナンスは最低でも年に一度、公認の PSE 販売代理店で行う必要があります。弦やケーブル、カムやリム・ハンドルなどを含めたすべてのパーツを検査し、ダメージや摩耗がないか確認しましょう。

## 弦とケーブル

毎回シューティングを行った際に、弦とケーブルに上質なボウストリングワックスを軽く塗るようになしてください。ホイールの周りを取り巻く弦の部分にワックスをつけないことが特に重要です。この部分の弦は、カムの潤滑油を使うことを推奨します。これらによって弦とケーブルの摩耗を軽減させることができます。弦やケーブルは定期的にチェックするようにし、5,000 射ごとか、12 か月ごとに傷みがあったときは交換するようになしてください。

## ボウプレスを使う

すべての X テクノロジーボウには承認されたボウプレスを使うべきであり、特に配慮をすることが必要です。ここに示されている方法を確認せずに、弓にボウプレスを使わないでください。

承認されていないボウプレスを使ったり、承認されているボウプレスで間違っ



た使い方をすると、必ず弓か個人にダメージをきたしてしまいます。間違った使い方やメンテナンスで生じたダメージは保証の対象外になります。承認されたボウプレスのリストを確認してください。

## フルチューニングボウプレス

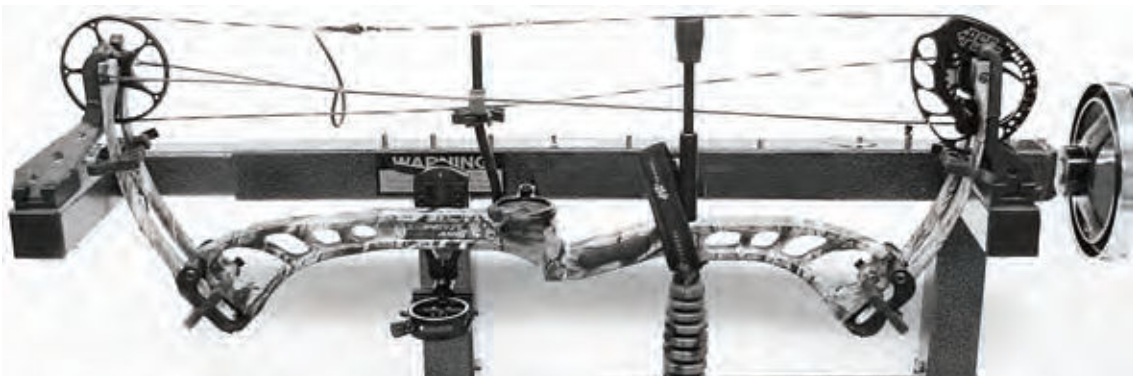
1. EZ Press by Last Chance Archery
2. HTM Presses
3. E.L.P. Bowpress by L.A. Archery
4. C.W. Erickson's Big Squeeze Press with Limb Fork Attachment
5. Apple Evolution Bow Press
6. Apple Eliminator Bow Press

## 一部のチューニングが出来るボウプレス

(ストリング・ケーブルを緩めることはできますが、取り外す事は出来ません)

1. Sure-Loc X-Press with USL Adapters
2. Apple Super Pro Press with Parallel Limb Adapters

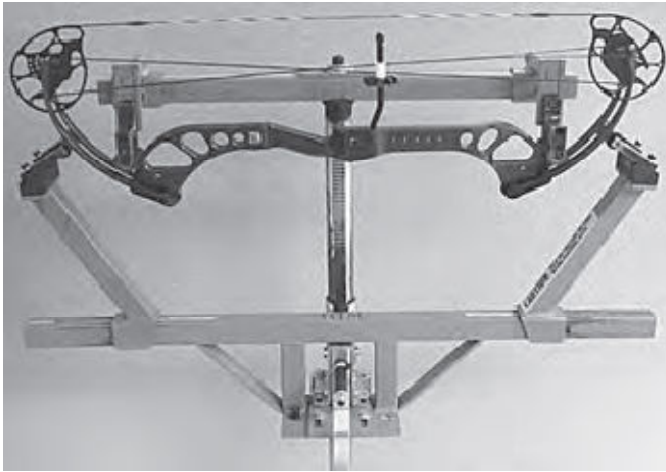
利用可能なボウプレスは 2 種類あります。一つはコンプレッションタイプ、もう一つはプルタイプです。



## コンプレッションタイプ・ボウプレス

このタイプのプレスはリムチップに対して水平方向に圧力をかけます。他には弓へのサポートは必要ありません。このタイプのプレスを使う場合は、すべてのリムボルトを「底」から 4 回転ずつ緩め、弓をプレスに固定し、図のようにリムチップにコンプレッションをかけるように内側にプレスしていきます。

弦とケーブルを緩められるだけの圧力をかけてください。過剰な圧力をかけるとリムにダメージを与える可能性があります。過剰なプレスによるダメージは保証の対象外になりますのでご注意ください。



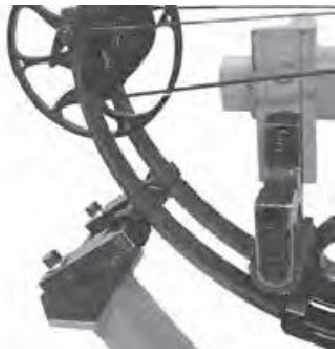
## プルタイプ・ボウプレス

このタイプのボウプレスは、リムを挟み込むローラーの間で、ハンドルを垂直方向に引っ張って使います。

このタイプのプレスを使うときは、ローラーとプレッシャーポイントを正確につかむことが重要です。



リムボルトを底から4回転分緩め、写真のように、プレッシャーポイントを、リムと接触しないように可能な限りハンドルを近づけて設置します。プレスを使っている最中にプレッシャーポイントはリムに接触してはなりません。



弦やケーブルにテンションをかけるために、ハンドルを下に引いたときに弓がローラーの間を横に滑ったり、すり抜れたりしないように、リムローラーをリムの外側に設置します。ローラーはリムポケットから4インチ以上離してください。そうしないとリムが壊れてしまいます。リムにテンションをかけるとき、ハンドルを下に引きすぎないように注意してください。弦とケーブルを取り外せる程度までにリムを曲げてください。

絶対に、リムの腹（最も薄い部分）がローラーをすり抜けないように注意してください。

ピープやダンパーの設置や、弦の交換は、PSE 正規代理店でも可能です。

## 重要:メーカー保証登録

購入から 30 日以内にこのフォームか、オンライン登録を行わないとメーカー保証ができません！

## オンライン保証登録

[www.pse-archery.com/registration](http://www.pse-archery.com/registration) にログインしてください。  
台座の反対側にシリアルナンバーがレーザープリントされています。

